

# 震災がれきの受け入れは可能か

井星 喜文 議員

## 答 処理能力の観点から困難だ



復興の火・祈り（石巻市）

**問** 5月に石巻市を行政視察。現地の惨状を目にし、復興支援は国民の義務と痛感。がれきの八女西部での受け入れは可能か。

**市長** 当分の間、現状を維持し、今後の状況変化に応じて検討する。

**教育長** 公教育の前提は日本国民としての資質・能力を身につけさせること。学校規模だけでは生

きる力は着かない。教師の指導力等重要だ。各校工夫し取り組んでいる。

**市長** 市民生活への種々の影響を考え、全庁あげて対応する。

**市長** 後期基本計画では小学校再編を見直したのか。

## 校区コミュニティは次の段階へ

**問** 校区コミュニティ事務所で住民票交付等簡易な行政サービスの実施を。

**市長** まずは25年度までに全校区での協議会立ち上げを。将来の方向は今後検討したい。

**市民生活部長** 住民票の交付方法等解決すべき問題がある。まだ検討が必要だ。

**市長** 平成22年労働力調査によると15歳から34歳人口で失業者134万人、フリーターが183万人、ニートが60万人といわれる。この中には労働市場が好転しても就業困難な若者もいる。

## 市の若者サポート対策は

五十嵐 多喜子 議員

**問** 平成22年労働力調査によると15歳から34歳人口で失業者134万人、フリーターが183万人、ニートが60万人といわれる。この中には労働市場が好転しても就業困難な若者もいる。

**市長** 福岡市周辺での25歳から44歳の働く男女への聞き取り調査では、行政に対する支援策として、男性は資格取得、女性は再就職への施策を希望している。若者の自立に向けた支援策が必要と考えるが、若者対策と施策を尋ねる。

**市長** 若者全体の実態把握はなかなか難しい。若者への行政からの積極的なアプローチはしにくい

**市長** 若者全体の実態把握はなかなか難しい。若者への行政からの積極的なアプローチはしにくい

が、各種相談については関係する部署で連携を取り、問題に対処する。

が、各種相談については関係する部署で連携を取り、問題に対処する。

## 歴史的観光資源をシンボルに

**問** 坊津街道は発信力のある観光資源であり、市観光推進プランでも「観光客が足を運びたいくなる工夫をしていく必要がある」とあるが。

**市長** 薩摩街道は貴重な歴史遺産であると認識している。市の貴重な観光資源として活用できるようPRしていきたい。

**市長** 薩摩街道は貴重な歴史遺産であると認識している。市の貴重な観光資源として活用できるようPRしていきたい。

## 「若者サポートステーション」が始動

(北九州市)